

天草市上田家文書調査と孝子褒賞文書群

東 昇

1. 天草市文書調査

天草市上田家文書は、幕府領天草郡高浜村庄屋文書で、約 7000 点の文書群である。1997 年以來調査を継続し、研究成果として 2016 年『近世の村と地域情報』（吉川弘文館）を刊行している。2018 年度から科学研究費助成事業に採択され、新たに「近世村落文書の目録再編成による地域情報の構造分析」というテーマで調査を実施した。

今年度の調査は、2018 年 9 月 18 日（火）～ 22 日（土）の 5 日間、天草ロザリオ館、上田家資料館において調査補助有賀陽平氏（京都府立大学 4 回生）と実施した。天草ロザリオ館（天草市天草町大江 1749）では、上田家文書の内分散保管されている文書の目録撮影を行い 252 点撮影した。上田家資料館（天草市天草町高浜南 598、上田陶石合資会社内）では、上田家文書の勤役部門の上田宜珍庄屋期（寛政元年（1789）～文政元年（1818））の文書を調査選定し、目録撮影を行った。研究協力者米谷隆史氏（熊本県立大学教授）と、今後の調査計画について打ち合わせた。

2. 孝子褒賞文書群の分析と報告

天草市の調査成果をもとに、各文書群の分析を進めた。2018 年 10 月 5 日（金）～ 6 日（土）京都府立大学文化情報学研究室において、第 6 回地域情報研究会を開催し、研究協力者村山聡氏（香川大学教授）「近世村落文書の体系性と百姓の年中行事」、東昇「上田宜珍庄屋期（寛政～文化）の文書群再考—寛政 2 年孝子万七文書—」を報告した。本報告では、寛政期の孝子褒賞関連文書群を中心に、高浜村の万七の孝子行状、当該期の上田宜珍日記を用い、文書群の形成過程、幕府の孝子褒賞「孝義録」との関連などを分析した。



写真 1 文書調査の様子